

三国志と『論語』

孔子の言行録をまとめた『論語』は、いろいろな解釈が注として付けられて残っています。その中で、最も古いものは、曹魏の何晏そうぎ かあんが書いた『論語集解』という本です。

曹魏とは、曹操が基礎を築いた国です。そう、三国時代の『論語』の解釈が、現在体系的に残っている最も古い『論語』なのです！講座では、三国志研究の第一人者、渡邊義浩先生をお迎えし、三国志の展開の中で、なぜ何晏が『論語』に注釈をつけ、それにはどのような特色があるのかを一緒に考えていきます。



諸葛亮（蜀）

【講師】渡邊義浩（早稲田大学教授）

専門は中国古代思想史

『後漢国家の支配と儒教』（雄山閣出版，1995年）

『三国政権の構造と「名士」』（汲古書院，2004年）

ほか著書多数

【日時】

2016年5月1日（日）

2016年5月8日（日）

両日 11:00～12:30



周瑜（呉）



曹操（魏）

【会場】

東洋文庫2F講演室

【参加費】

5月1日、8日それぞれ3000円（入場料込）

【参加要領】

- ・中学生以上を対象としています。
- ・事前申し込み制です
- ・2日程それぞれ異なる内容ですが、1回ずつでも受講できます。

【お申込み方法】

①ご住所②お名前③ご参加人数④お電話番号⑤お持ちの方はメールアドレスをご記入のうえ、下記【お問合せ先】までお電話、もしくはメールにてお申込みください。

【お問合せ先】

〒113-0021

東京都文京区本駒込2-28-21 東洋文庫ミュージアム

電話：03-3942-0280

email: museum@toyo-bunko.or.jp